

提言第8号 救急医療における画像診断に係る死亡事例の分析

事例9

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代の患者。腹痛で夜間に救急受診。
- ・ 担当医師の診察時、下腹部痛あり、腹部は平坦で、やや硬く、圧痛あり。急性胃腸炎、便秘、腸閉塞の除外目的で立位胸腹部X 線撮影を依頼。
- ・ 画像では異常所見なしと判断し、安静で症状が改善したことから、帰宅を指示。帰宅後の朝から食欲なく、自宅トイレで倒れ救急搬送。画像検査から約 20 時間後に死亡。
- ・ 死因は十二指腸潰瘍の穿孔。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖 有。
- ・ 画像診断報告書 無。
- ・ 胸腹部単純X 線写真で横隔膜下の遊離ガス像を認めた。